911.3
ブ

大久甲子春新刻

三戒堂方艸輯

俳諧

文久千三百題

東京書林

温故堂藏板

必由物感〻也發也
只心之一已矣此心與物離合
物能轉心或為心所轉心能轉
物或為物所轉事物無邊際心
亦無窮盡彌滿宇宙跋涉古今

一物一感猶其千態萬狀萬物
萬感豈能極其變態乎所以古
今億兆人吟趣新〻無窮遐方
近境客妙趣心〻叵盡也武府
三戒堂主人編集今人之佳詠
題貞盡擧巻分乾坤命号研玉

〻〻何謂曰心為之種猶如崐
崘出玉烏夫思無邪在此矣夫
觀無生爾在此矣其善是研其
美是玉以是風交可不道善哉
乎旹文久壬戌端午

嶺隠道人題

嶺隠閣本

凡例

一 此巻の蕉翁は此とけて元録寶永年間の屢巻んなるより第延
久久此今に至り聯も裏集なく諸人擧て洮洲の編修せると
叟の巻流とをたしとみ慕ひて日に月に繁茂なせるに限ひ編集
えきしくのを此も巻に若干の頃をひとの肆にいたし納るもの
遑あらはとなんとに報願てふ句集をそ此時に風雲流行の勢
つのら調に顯とて此のら今の世いましてに遡りたる此ちその繁なれ
たる鼓夜の時をも志らせおくに願ける輯者の本心より仰ける事ハ
強て名字を好むたくひにはあらしにし今此編集もおなし
意をもてのくるそのしつるのあるを

一 季節の順を増山井のこのしに原きて余此稽の志をしたれ

一 彫刻中種々のさゝる事ありて須臾月日をこのさゝめしかハ
たかうまた古人の部に入りし風なるもあるを思ひしことを要しく
紀しまるさんもてけ整ゆかれさしおきぬ

一 巻末に西村雜咏之部を附録せりかはくハ一影八詠ゐ色又ハ
蜀句を玩索して集中へ挙へきもあんなかれ後に乾坤
二綴の紙数に限りあれハよりとまつなくこのくるなしぬその
余を集まりて后時えたる後にまたまたまのひとのこくてこのき
雜へさるものありぬ

一 題名目録出したまいしく名目このるへきの辻系蔓を入るりて数ハ
そのことへ記して採出せの便とせ

三戒堂芳叶識

題名目録春之部

正月	昨月	元日二	元朝	立春	明春三
今朝の春	今日春	神の春	代の春	笑の春	男の春四
花の春	玉の春	千代春	国の春	里の春	浦の春
鶯の春	老の春五	庫の春	宿の春	年の花	三の朝
初鶯	初鶯六	初雲	初日	初霞七	霞
初東風八	東風	去年今年	今年九	初春	井開
若水	初手水	年祝	以菱十	乗玉	初夢
元方十一	門松	書鍋	門鍋	注連鍋	鞍鍋
鍋海老	鍋炭十二	橙	楪	富楽	裏白
掛鯛	鍋臼	鏡餅	歯固十三	大福	菜子

麻	蕎麥	大麥	雜穀	蜀黍	芋
稗の子	田	粳	五分米	小麥	蓬萊
種	續	結昆布	年男	庭竈	粉
物の實ハ	胡子	手綱	雙子	雙六	福引
實引	麻	續	麻幹ヲ	蒸麥	蒸菓
粗	公	雪	退大	儡儡師	水祝
粗	書	筆始	書	初丸	義初
新年	初	繍	初	鍬	初
新	初	義	若水	若菜	若菜
初子ノ日	義開	春始ノ	若水	若菜	若菜
小松引ハ	人日	二ノ日	二ノ日	若菜	七種

芹	苺	薺	御形	蘩蔞	

蛤	油蝌	油苦	蒜尾菜	油雲 四十	青鶏	
初鰹	飯鮹	櫟桑豆	猫の魚	佐保姫	山笑 四十	
甘老坂	杉の芝	初緑	茶ゝゝり	春の水	二月 四十二	
鶏さしき	初午	二日灸	子納 四十三	蒔鶴	涅槃	
西行忌	積悟会	治聾酒	社日	山代	彼岸 四十四	
猟夜	猟月	春の月	春の宵	春の夜 四十五	春の水	
春の夕	春雨	春風 四十六	風光る	春日	春の雪	
鳴笑	京遊 四十七	橋木	さし来	山燒	燒野	
畑打 四十八	苗代	水口悉	種井	種ひたし	種ひたし	
種俵	種蔚	種芋 四十九	獨活	山葵	早蕨	
蕨	狗脊	出茶	枳茶	蒲公英 五十	芹の花	

芹の花	大根の花	菜ゝゝ	五形	芽花	虎杖
五加木	狗杷芽	角組芦 五十一	ひのきみ	菓苗	菓根分
春の竹	桃	春の巣 五十二	蕨	蕨の巣	引鶴
引鶴	鶯子 五十三	春の雪	残る雪	祝雀	雀子
蛇出穴	蜂	蛇 五十四	初蛙	蝶	初蛙
蛙 五十五	田螺	孕花	蔵角	具多風 五十六	紙鳶
初霞	三月	孫生	上巳	悪水	雛 五十七
菱餅	菱餅	白酒	鶴合	宮嶋	獺祭
潮干	蕪道忌 五十八	壬生忌佛	壬生踊	梅花忌	山身拭
峯入	田荒化	花鉢	初花	花 五十九	花七日
花春 六十	花の雲	花くもり	花の雨	花ふぶき	落る花

花見 六十一　初櫻　櫻　八重櫻 六十二　糸櫻　山さくら

茨櫻　遅櫻　櫻朝 六十三　櫻曲　さくら貝　茅舩

夜鶴　[illegible]　[illegible]入雪　雪　桃 六十四　海棠

梨の花　連翹　辛夷　木瓜花 六十五　木蓮花　長春

つくし　茂　沈丁花　小米花　山枝 六十六　林檎花

山吹　櫻艸　菫　菜の花　菜夜 六十七　茗荷竹

藤橘　姫宴　初虹　八十八夜　[illegible]　[illegible]

名殘雪　永日 六十八　遅き日　仲の秋　孫生山　春の山

春雪　春の川　春の海 六十九　春の湖　春の色　春の鐘

蕉の春　夜ちゝのし　夜鶴 七十　行春　三月雪　春をしむ

俳諧文久十三百題春之部

三戒堂芳草撰
潤雨堂草甫校

止月

正月やとりたやさとの走り炭　有言
正月やたまる反古の美しき　蓬宇
正月の岩茶よりし寒きの私　素山
正月の匂ひや木曽のうつたせの　文帯
正月や月ゆるりと星何のわ　士芳
正月や寐るも惜しの数のうち　雪南
正月の米や夫婦の茂葉のき　桃蓋
正月や松の楷り　八日月　雨后

睦月

正月や餅をふさ起し　嵐穴　波国
人なるは差る正月の小袖の丸　巣欲
正月の雨や鉢木の花をそのき　文雪
正月や何ことめらるゝ只出と紫　思乐
正月や世に宝つくしき月と雪　常晴
正月も四五日殺ふ旅寐の形く　花海
雪車引に出るも山家の睦月ぶ　五風
何も世ぬ日の立世ぬき出月ぶ　智静
年もなく討へたとなるゝ出月ぶ　其岳
只さもあんな夜なしき出月ぶ　巣欲
旅人に当に寐るを睦月の形く　望風

元日

海山の宮も已せ計て睦月の丸　一龍
たゞ日を起くるも　あき出月ぶ　梅花
起くに当世見る町の出つきぶ　鶯成
元日と起りへたをかし家ぶ　栖芹舎
元日やそ生ぬたゞろの夜ようつる　佐元　龍湖
元日や雨の宮こゆる後手口　久栄
元日や遊びそめさる少しの男　乙鶴
元日や篠ふく風も只なりさ　莖坡
元日や庫の鶴寐も美しき　桑居
元日を知りて菓木の朝ならけ　由縁
元日となるや世のさま人のぞま　大夢

元朝

元日やさまざまにさいる柱きハ　市猿
元日や籠の小雪も鶏ばらん　敬為
元日や葉に葉度もおしきこそ　丁遊
元日の日影さしけり里艸の宿　箕山
元日は明日を拂のたぬ日なり　竜（彦友更）　生殊
元日のたまはわたらく宝さの孔　為代め
元鶏やのこさしこ通る古家の人　公成
元朝や楯に雪の花たく絲　江東
元鶏や沙は沙りて美しき　茶雪
見るこそ此は呼ものに東立にけり　菱里
東のこゝろさしこや夏や門の松　呉柳

立春

立春の日もうれしき東立雪の花　以兄
雪の絵にも東ろつ帯しきこの孔　巣飲
庭あかりもさぬあそ嬉し明の東　為山
只宇生しんにたやき明のたる　斗玉
各家の者もさいりて何けの東　の春之
代のへる時も門田にけさの東　雪喉
うつる日も仮をめなこれ七鶏の東　涼花
船もこまにかり立ちり帯きの東　松裡
衛なく春さへ七鶏の東らしき　巣飲
せたむ夜の明ひろのりてけさの東　我貴
今朝の東明あてなきこそうれし　乙雲

今朝春

今日春

結て甲斐ありて日永しにこの歩　葉霞

神春

堤行人もいそのまゝ帰ふ此たる　氷壺

右の〳〵と旗の三枝や神の歩　波同

人も出の桜は柳と神の歩　孫市

御代春

花表のちらちの宮さ　花神のたる　佐君　雑湖

日の出此頃ほとり日里の代の歩　馬谷

知らつ清く家は井の出り代の歩　白宍

家屋やたそき帰ふりも代の歩　半湖

日出人や同しまして代のたる　見外

君の春

松の花此は苔ゆり　天の はる　秋甫

乗ようを言へぬ白髪や　天の歩　太橋

四方春

呼白き日枝名とも出世四方の歩　桜通

河も此のて結なりしさや四方の歩　永機

人ちる是やたしめ此四方のたる　葱玉

あてこけの戸窓出てきて四方の歩　帆道

花春

ゆるせなきあのつとめや花の歩　禾以

結となく過来し方にも花の歩　古友

法士の家は源来にとてくたのたる　桃々

唱にふるこ此は史あり花の歩　林志

釣つ花の夢さまたりは花の たる　峰風

玉春

たつちりと垂水の先も玉此歩　江之

そ明こ空をいふなり玉のたる　茅甫

千代春　浮雲をしつむ事なし千代の春　由岐雄
松岬の中しのゝ明て千代北たる　雪輔
岬をこゆ葉出るに露やちよの春　永乗
國春　神祇をゆたかに垂生て國の春　花洲
里春　汲水も手近に足りて里のたる　学友
浦春　鶴より手高に明て浦のたる　一外
下結たるの数多供ハ見えたる浦の春　葉居
江戸春　日の新に流し神乗や江戸の春　為山
東のよるにはハ覚えたる江戸の春　羽人
実にもとのこゆる法乗や江戸北たる　花外
城をも人になせてより江戸の春　没法

老春　うせしさの家に味あり老山春　一止
たやしきりぬ明さめんも老の春　花可
菴春　に飽いしきをの春焚せる庵の春　蟻蝶
雨杯の桃に浮りて葬のたる　岑壺
志つのきたる嘆たるのなり庵の春　学友
宿春　さしたるに富て小世にし宿の春　九峰
障しをのゝ何世ハ世に白を帰るの春　宗芳
神柄の一度恵方や宿のたる　桜圃
明り浮る灯新ふるひぬやとの春　良可
晩うなるまでにハなりぬ宿の春　壮山
年花　門若をこゆ出るくなり年の春　学居

三ツ朝

初鶏

[illegible]

初烏

[illegible]

初空

[illegible]

日

霞

東風

去年今年

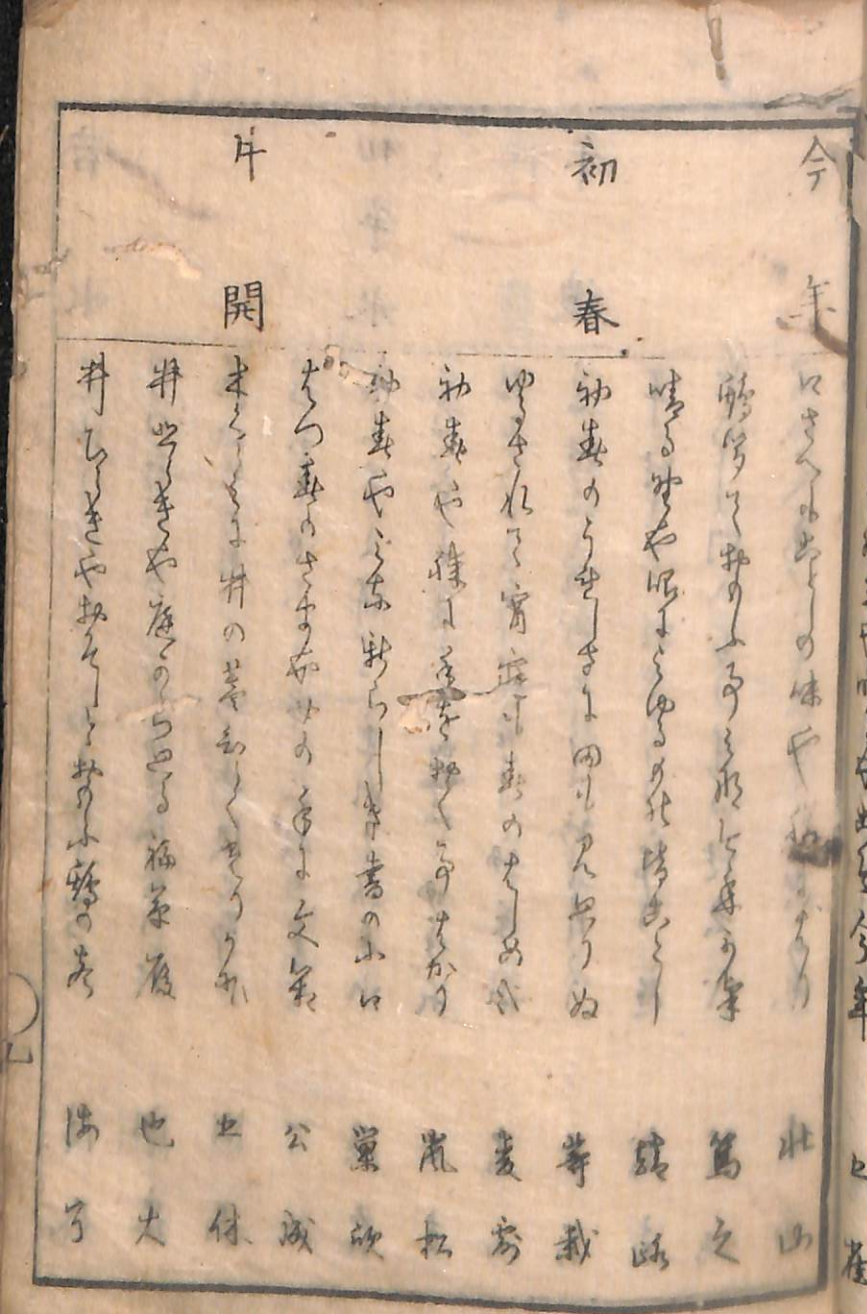
市の灯にゆるや東風の吹たるべく　阿や雄
夕東風やしかりかくせし薮の雪　お一渡
東風ふくや蓋るの海と何と　菜點
吹たるを東風や海江に日の昇る　呂舎
東風ふくや枯芦たちの新出しけ　柏泉
里くの[illegible]ふりまゝ行り去年出し　靜渕
松風や[illegible]ふるちを出して年　花蝶
神の灯社余りを去年と出しけ　鶯宮
知らく戸の裏と知りてや去年出し　菜友
[illegible]を隔て去年と出しあれ　艮お
海の雪社立や成るや出て今年　立雀

今年

初春

牛開

口さくに出しの味や[illegible]　壯山
[illegible]ふるに[illegible]年の年　篤之
晴る雪や[illegible]ゆるの社[illegible]　[illegible]
初春のうせしまに同じ[illegible]ぬ　等載
ゆきれて宵[illegible]春のたしめ[illegible]　麦[illegible]
初春や[illegible]を[illegible]かり　嵐松
初春や[illegible]書の[illegible]　巣[illegible]
たつ春のさ[illegible]の[illegible]文氣　公成
未[illegible]の[illegible]　立休
井[illegible]　也大
井[illegible]　海宇



若水

初手水

年禮

[illegible]

御慶

[illegible]

年玉　初夢

乗玉や光くふくつき生のけしき　乙良
乗玉やこゝ本却しかへてこゝ手帰り　文常
光しまやそのかくよこさは松き　春山
乗玉やかゝて光くせき朱賛斗　国駅
とし玉や羅ゆゑもきるも松をし　巣欣
乗玉やおくへは文を置てく　竹　絶史
光し玉は新見石くるゝ和場代　陳芝
光と和や神夢問ふてくつ紙のん　完鶴
神夢や兵のりそめ此話よくらい　其菅
神夢はとけて新年り和掃し除　宗先
神夢や海買ふまでの年ゝかしき　童岐

元方　門松　松餝

一竹出へ春の新せまて元方の礼　分静
出の名を望むにも来きこ元方代　巣欣
流れてハ恵方ゝ出のふ鶴の事　素石
家宿の元方とつくし堂の山　夢風
潜り出て門松をまり拾りしけり　素丈
門松は見出しの清きし学家代　白相
四松の風小気味のし海の破　甘蔗
松松をて門めつらしき月数の礼　菱里
月にそふ新のこゝりや松のさり　の憐
見出てよし小宮ゆゑ家の松のさり　子升め
中宮は出つきしとあり也松餝　指山

門餝　雪よさまを新もうるへし門餝　松圃

注連餝　朝のせや門の餝を安せてふく　稔市

[illegible]　[illegible]代め

輪飾　[illegible]　四子

[illegible]　左一

[illegible]　旭氣

[illegible]　田且

[illegible]　奥史

[illegible]　鳥舟

餝海老　[illegible]　而店

[illegible]　[illegible]

餝炭　[illegible]　破雨

[illegible]　菱里

[illegible]　一清

橙　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

楪　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　世貞

[illegible]　由岐雄

齒朶

よる宣のたくひに齒朶のうら裏
より深し桓は當朶の白ひの丸
の朶の葉や明を生るの記志まり
りら白の紫はまゝ赤の日数の丸
裏白も二紫くゝやだ結をしき
の什鯛やおこ指のふく生来たら
掛鯛や家つきのよき壹変
鯖のけしきとなり如のぎり白
のぎり白是を出の處れ安石
のこそをちんの壹れう清りに皇
鏡をち丸きを神の生るの丸

相海
禾山
自長
桜通
五休
其鶴
源瀬
芳皮
芳州
桜程
二頭

裏白

掛鯛

餝臼

鏡餅

齒固

大福

藥

上却きをおこ寝うやのみのち
ふくりと當朶を褥やのこそをち
家来めを宝き生変や鏡餅
南天の葉も数ありまのこそのち
當のこめやすのこそ居変
齒のこそや丁変をしひ何勢恨
是のこめやのをへつしふる来の数
大ふくや記白はまれぬ数たらる
ふくやゆふくの知もいまひ多
茶子の記のへて居るや几帳のけ
茶子の名前一生をうけり皇

海禾
三楓
波頭
芳州
破雨
五休
拙遠
文宗
洪茂
九起
本州

屠蘇

常にまきて年代おもやうその破　生仙
家にやうそれも覚えの破ぶらん　巣欣
くりにさめて紙日屠蘇の破　青柿
さその来や霧起屠蘇の破　熱史
おとうきは人のさまりとその破　米和

若餅

若餅に新たに当楽のまえられ　水春
その餅は家伝まかりの遊びだ　尾村
家をもちに春は二度目のかりだ　春秋

太箸

古箸やありもひつくに起のしあり　善陽
古箸や國ありもあきにしけつ里　学仙
ふと箸や持あく出手の起らしき　姑山

雑煮

鶴のはなれは宿の雑煮の形　乙也
煮をめし出ふとんでりて雑煮だ　精義
起ふ年の祝にうせしき雑煮の礼　の浦
山芝をこのへし人に雑煮の形　苣麿

芋頭

菩とせはふくくしさに芋のこと　波周
見てさへ年と祝ふや芋頭　江三
祝ちるにそのもさらふにいも頭　梅程

螺煮

独合に出してあてきやにし肴　巣欣
ちり見ておくに祝ひやにし肴　清民

數

数の年を悟ふ者ぞう学えに皇　一清
数の年は年にもこゝる日数の礼　茅友

田作　田清くりや然れば一けしき　赤甫
田作や海の[illegible]　史項
田ふくりハ名は呼かりの尾轄の孔　契史
田清くりやたしまむとなく日数ふる　等載
五万米　税ふへきまは持て居る五万米ぞ　尾村
其ぬを撰ばハ少なきまゝめう孔　良の
小殿原　磯遠まは網出税ハて小殿原　呂菅
弓形の反ぶをよけ出ふとの原　蓋湖
十か十分のこゝちや小殿たら　波瑤
蓬莱　蓬莱やいまゝく出れば及ひ出し　而店
蓬莱ましのふ新とのこゝちぞ　涼花

蓬莱は出て出やまりや新たる　岩艸
蓬莱や出のこのかをる出たのり　枚紹
蓬莱のおまを持まき生義う孔　巣欣
蓬莱の新ちさしけり壊子出し　[illegible]
蓬莱の傍は似あたし売史姫　杜和
喰つくや出つくは眼のとゝく　出風
喰清くやめてきて眼のとり合を　一亀
穂俵　穂俵のまほひう清り出小杯　茎甫
結呂布　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
結び昆布　[illegible]　揚雲

年男　[illegible]　[illegible]岳
十人の氣に入る相よとしをとこ　[illegible]
[illegible]夜の[illegible]年男　由[illegible]
庭窓　神の[illegible]　[illegible]臣
[illegible]　祐之
福藁　福[illegible]　葉[illegible]
福藁[illegible]　[illegible]
福[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]朝
福沸　[illegible]　[illegible]
神[illegible]　[illegible]友

嫁君　日の[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
羽子　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
手鞠　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

破魔弓

破魔矢

福引

寶引

窮積

窮擧

若夷

萬歳　月栖

萬歳のさし波よきる新の形ゝ
万歳やこの年に神を打つたけ
万葉の二軒をくるゝ山家の春
万歳や神にこゝ生しし松の重
万葉の名を笑ふ生て忘れけり

春駒　宇山

春駒の新しひにのほる生変かれ
春駒や蓬ふも唄ふも只ひとり
春駒の手綱にも日のゆきけ里
春駒の宗廷寿も天気の形ゝ

狙公　蓬里

狙公のもちのつて掛かや猿まはし
唄にもふ綱のこのれんや狙まはし

鳥追　月枠

鳥追や春もさくらも来ぬり
鳥追の狙にそのいふ涙しかれ
鳥追や新のあのうきき竿ましし

傀儡師　玉首

月前の名変ちや世傀儡師
安き世をうきる手しまや傀儡師
ふたり来て姫たりまゝ姫や傀らはし

水祝　巣欣

水祝のうたを極ぬ生ぬ祝ひ
鶏頭にこゝ生てまつや水いはひ
何とけなき長男にきなり水祝ひ

懸想文　森柔

懸想文の雑人新日のさして並恵文
ふゝさうに笑ふもなりや並恵文

初暦

[illegible]

吉書

筆始

[illegible]

書初

[illegible]

着衣始

[illegible]

弓始

[illegible]

馬乗初

[illegible]

船乗初　乗そめもたらしとまり達か渕　巣欣
けりそめの船の旨をむや町表　悰父
乗そめの海ぬに来るや舟の家　佳哲
鋤初　耨神やさつきしふれハ雲もよき　芝雪
鋤そめやまとさきに起し蝶の歩　唯風
鍬初　天か代や乗くに出の鍬すしめ　季成
初浴室　神風呂に竹や羽織のふりこのけ　九起
神風呂に稱るや拔き雲をのら　茅甫
初賣　神賣に問ふそれ君ぬ價この礼　素屋
賣そめ比をれもさつ歩か膝の豆　丹宸
初商　よしまきまき神事ひや　白屑　宗善

初荷　ふりたほ君家も志屋か神荷ぞ　秋甫
日のうつる鞍も春も神荷か春　萬之
十里右と来てまや舟の神荷ぞ　坂珠
節小袖　蒼ぬやゆとのふ人の菅小袖　茅雷
世さかりの人はもまり菅小袖　唯風
節振舞　雨の日を菅ふるまんの日とりの礼　波蘇
雪に笑ん破ふてハ居れて菅祝ひ　茅友
謡初　廣るそ宝ん生成や謡そ見　玉清
四人も扇のまんてうまひそめ　陵香
松囃子　松もやし申ふ言まる灯かけぞ　楽居
蓬葉もめてくく何れて松もやし　誌岳

御降

藏開

松内

天坪の青ハいつくを松のうち　一清
松のうちにて遊びに来るや松の内　東郊
遊ぶ気にまかせ戦とし松の内　桑峰
里藤ある気にて居せしも松の内　巣欣
とめてよき人ハまた来ま松の内　半夢
居城りハ座のつもなり松のうち　笠坡
駅舎にて起る児もあり松の内　丹岩
夕暮を風ののきもや注連の内　草甫
神に入る風も気味よし注連の内　芝雪
蓬のして家にて老ぞ初子の日　抜通
をしむ日も無しめてのみ日うれ　坪城

注連内

初子日

白雪に沖のあらや初子の日　桑居
沖の和に廣つりそめる子の日　菊路
松も手に手をとくなりふ子の日　松陰
人たちの沖にうつりけり子の日の風　蒼湖
出て人の鐘も気もまた子の日うれ　庭の
空寄うして風清き子の日うれ　布山
晴て居て松にちる雪や小松曳　苣庵
羽織着てのるくしきや小松引　古来
人の気はうちきたしめや小松引　松圃
曳ひとへ清和のよしむ小松うれ　永来
ひく前のみりハ皆ある小松の和　半夢

小松曳

人日若菜

人の日や寐さめは遅く庭の松　夏代
人の日や何を焼きの雲なのめ　秋甫
人の日を大事にそのく松の姫　唯風
人の日も常のゆふへと歯よ白雪　薫岱
浦風や柴は古きのつ若菜舟　高岳
宮けさ日のさ浦風の若菜ぶ　陵山
脊史なる砂山しぬ若菜つゝ　兵両
洗ふなと宮ゆるこのなかれ　夷岱
天か手はふ生てこゝりの若菜ぶ　風松
雲の歯はまやうつろひぬ若菜様　雪地
磯畑や若菜つ歯のもまもり笠　均賀

磯菜七種

明は若菜山を深雪の鶴ゆらけ　一の浦
籠の中に出候へ通る若菜の東　二の候
おりふのり抜は出てく若菜様　三宇
何ら生ハ千年は以ら生ことの右様　藤雪
松の根は求たるくや磯若菜　九起
鹹は香さけてもとりぬ磯菜様　鉄玉
砂のふる松の月れ磯菜の排　増外
来る波は籠なとらせて磯菜様　呂舊
名を得て七艸さのまを煙くなれ　曲川
七くさや新の雀は抜きぬうお　玉止
七艸やさりめて長き比ゆふ亀　羅村

薺

七くさやとしの新しうきこと里　葵史
七草はなそだんなきを入さりし　五休
七艸やおなし見ひのとも稱り　雪曠
おなむまるくありしか　寄　葵　溪海
敲手はあらせ葵をたやせる　稱愛
たや持てくまる人あるは　掛　葵　清之
手掛やよ江の葵を　笑　寐入　靜夾
葵うつたつこる　冴るとたしうれ　笑　栖
いそのしきそのこたしめや　葵　お　くきす
春も先調子つくなり　葵の　根　木和
たくまるこしぬ　葵の　白しうれ　巣　欣

薺粥

新なしてく　此年ハせまし　葵　粥　公成
其の夜を家に稱してくまつ　粥　汝岐
破とめて　ふ鉢も　なしや　葵　粥　蟻兄
砂川や　庵に　新しく　なしの　芹　曲阜
芹　洗ふ手に　世の　生ちの　加義の　和　素明
芹　掛てくまるや　清和の　なくこのこ　葵　雅
手をそきくつくり　根芹　この　れ　掛　石
掛くこぬ　なしら　葵し　芹　葵　杜鵑
なしの　名八言　なくて　生　ぜり　葵　佛　堆
乗　帽　して　二葉　三葉　つ　乗　葵　うれ　掛　笠
こくこのよして　掛の　古　ますまふ　雲　心

芹薺

菘

蘿蔔　北梅
佛坐　月梅
居籠　常陸帶
削掛

粥杖

粥杖やぶんとさるもおもしは　右橘
一のゆ杖やさる中にもはるる行僧　法隆
粥杖やつまは伝へもよろぬ中　巣欣
一のゆ杖やのこのるる都へ重しつく　静史
粥杖は遠く一日訪そひけり　桑原

小豆粥

たつふりと仕おこぬ庫の小豆粥　倭山
煮おもるゆ此ゝ煮しし小豆粥　貴邦

粥柱

出来秋の祝ありもさに粥柱　雲心
いふとも出もいたふそ祝に粥はしら　長宜

土龍打

役引をたくも出候に土龍打　素橋
答へ人のつれてまたるや土龍打　学友

廿日正月

正月の第このへりとる以日の祝ゝ　華雲
正月は以日となりし麻きぬ　友遊

骨正月

うれふきけ骨正月の第をの　学甫

藪入

書父入のいとひけもなし美埃り　西菊
来るたしのなに藪入の気象のれ　斗玉
ゆふ入や後一たれの出行ふり　芳隆
藪入のたゝろまとのせや里酒里　喜一手
藪入とゝ見せこの家にて来る場のれ　五浚

店卸

炭のせも枝も都なり店却し　蒙里
大喜の井戸ものをくや店却し　士芳
人のけもうつる柱や店却し　長宜

御忌

福壽草

蕗・薹

蒭薹

蒭薹の雫踏抑とせて 鶯の飛し
蜑の子は蒭薹清和や新のひま

鶯菜

雪の裏のめくに 萬しうくひせ菜
おりとさ 地息の新や 黄鶯菜

木芽

深ふと 遅く風のいとまを木のめに
きりあてあてて 掃ぬく木の芽に
探出しに 家定る 目や木の芽に
雨よりも風にふき出る木の芽に
鶯やうの雨をなしめ 此木の芽に

草芽

草の芽や 是のし 屋に家のある
たゞ生ぬ名の名を 萩の芽出しに

萩井
花月
水壺
芳艸
歌曰
巣次
桑居
古谷
菱湖
義代
禹以

下萠

下萠の垂まつつ雨の晴男この秋
下萠や春の足あとこまたさ秋

草萠

蓬晴のして 隆高や艸を萠る
秋出をりに 萠る艸ありにの淡に
霞となる 霞や 暗山の草の萠

若草

萠艸や 日蓬にはしき 足隆り
夏の艸や人にも 宮へき 吹きたし
萠艸や 生る 宮へしき雨の隆る
萠艸に 濡てまでのうて 清和の秋

若芝

人の居と何と 萠芝に 尾えにはり
萠芝やあちらハ雪の 菓の末 菓

菱湖
但義
騏江
由義
以見
朱袁
芦麿
菊里
旭
秋池
芳艸

罌子粟　若葉

梅

立夏の出来のたゞさへ見る葉　秋甫
殘の夏も早きまゝ花やけし　二友
洗て先を当よりて梅の出産の礼　蓮宇
梅咲てよりある里に来りたけ里　蕉玉
夏もたゞふて宇つるけきや窓の梅　古棠
日のきしてゝ夏の先つ来るや梅の花　雪江
新にちる雪のいとたゞ梅の花　敬義
咲の盛して梅の作たゞ日和の新く　彙如
梅の夏や影る里の日の花　伝義
井筒なゝ何りてけきや梅の花　其骨
咲遅て墨りさてしかや殘り梅　萬路

まてきてる日は風の梅の礼　彙雄
居屋愛や畑さのひよりめの花　禾嘘
十歩なゝ上る宇さや梅の花　枝紹
梅の夏に早近くなりぬ夏の高　素学
出て通り人はもとも梅の蕾　長取
梅の夏や屋にたゞり風のある　永舎
夜ちらつの梅にあるしてきたかす　井蓋
なきる夏に月代おそし梅の花　幽夏
旅のちのあるしはもとて梅の花　乙丑
明のふるゝの結ぶくるゝに梅の花　渭川
夏もしりて色の咲きり明の梅　為山

よろ樹の當りしむ新や梅の花　田乐
咀の梅青き香四にくゝりけり　肖我
喰そめて日のらをらの梅かな　清玉
梅めくりくる出るやのしき水　蕉雨
水底の新まで空しし梅の花　傳羽
空出ひて枝あらしき梅かな　窠嘯
鏡の香を押しかへしけり梅一木　このはこ
梅見て屠蘇のおしゝ笑くてり　一稱
うぐ見しし山ふとちらの日ぬくゝ　布山
根の雪ハいつしか翁て梅に月　茅葉
茅の戸や人々寝てのゝ梅に月　幽止

紅梅

とく晴て梅のハらをし月の新　気詩
月のあるうちにとゝ梅の梅逢し　渡詩
月の出て夜の志まり春梅の花　こゝき雄
梅を風の日をのら明て月に梅　朶峰
日のくるゝ繋る春にて月しくめ　碧水
梅のさき庵の春りや月に梅　信ノ　鏡湖
門内の宵のゝ更て月とう来　梅通
紅梅や新は仕出しの料理強　苣廣
紅梅に夕富士宮のき日さし水　窠嘯
紅梅や梅妙に鍋るゝ水　李袁
紅梅のよくゝう会ぬ花の前　茅南

柳

行むや柳ゑんを居るひとりよ皇　一清
人来せんの柳しまを戦く柳の丸　鼓汀
居るして笑る家の柳ゑ　篤之
立よせは三日月さける柳の形　柳圃
戦ゑ夜風ゑつ夜の葉の葉　由地
ゑ引のまつよさしおく柳の形　弘英
青柳の新さはゑのこしり　智井
日の暮ゑきつゝ志たる柳ゑ　桐叢
相思りを家鶴のよしさ柳の葉　湖泉
夕宴をふつゝり寄る柳の丸　月梓
立ほしてゑかりも青き柳ゑ　夷湖

積てある津出しの栄や柳ふく　想永
湖の波はたゝしらや遠ゆかき　喋夷
ゆかしまのらくの新もつ柳ゑ　言之
愛よさむ栄は志らせる門柳　鱗三
ゑのあるこのくへなしくやさし柳　宗蓮
見たらの栄しこのたる柳の形　松皮
見て松ゑ楚の宮ゑりの柳の葉　蓼窓
をきてせは栄のめりよりぬさし柳　子竹め
鞭ゑて芳の汗のく柳の形　楽居
柳ちらつしを舟よせる柳の葉　土具
汁きこゑまのらまる雨の葉ゑ　常晴

鷺　鳥名　入声
鷺　水鳥　形似鶴而小
鷺鷥　水鳥　形似鷺而大
鷺鷥　水鳥　形似鷺而大
鷺鷥　水鳥　形似鷺而大

百千鳥

一里来て泊る家あり百ちとり　菱里
学来りも此都なんなりをる子鳥　祐之
新都のよきなり会や百子鳥　鶯宝
住よけ東里のこのりや百子鳥　の梨英
治却こは山の家しろよをちとり　学甫

春鳥

春にそふ分のたちきや春の鳥　常晴
起くるや学けた雀もたちの鳥　晴路
ちらまつて居るもけしきや春の鳥　菱洲
宮この帰るなりも忘れて春の鳥　のつこ
啼なしは春のふるはしたもの鳥　明水
尾のしらのたてしらく新や春の鳥　心足

駒鳥

雲のうちも出国るに日あり駒鳥の春　一稱
駒鳥啼や出来れ日のさ浴湖の上　朗山
出来鳥やれと物先を湖くなり　トサ　諸湖
生業のけふる匂しや鳥の春　智鮮
一里来て雨となり鳧鳥の巻　駒一
宇を啼や庭掃こけて出て休　雙魚

鶯

さくつりや雲ものくまで時うつす　嘉孝
嘲や庭木たなかすくたをのるて　河嘯
きくつ里や宮に志しくなる夜　学甫
嘲りや岸をたれ出し池の鳥　風竹

水鳥囀

きくつりや終日ゆきる波のうく　拾山

夕栄の松に起きたり雉子の声　柏梨
月のさして岬に雉子の高あり　風沼
雨ふらむ雲のたちいや起しの声　笠雄
帰し雉子高のうち典はたゞ来たり　升玉
独男のこゝろ寝さまたる雉子ぞ　旭象
鞭壹の石合変りぬ起しの声　葉居
きし鳴や山松の中に起りたり　素人
夜の雨をおかりて松田やきしの声　蓋坡
一網子たつむ雉子や雨あこのり　嵐松
小半町行てもしたるの雉子の形く　雲鹿
きし声を机のとをし起しは里　学甫

沖返

餘寒

明に近り沖このへりは変むの山　菜雷
江のうへや沖このへりしら水明り　学尺
さらん返る風のさまたまく月の暈　升玉
沖このへりもたゞよし松の声　故屋
樋の江に自横たる余寒の形く　影古
雨たまたや余寒深き　庭景多　来賀
峰の雲に宵のまゝのこる余寒の礼　柏梨
水鳥の丘に安らしし余寒ぞ　文貞
木綿の青に余寒のゆきこの形く　芳陵
鶴の男に殘一声に余のんの事　松松
前人に大いにてつ余寒の礼　葉居

春寒

未色帰や春まして寒き山屋敷　法耳
春もまた寒き時にあり かしきに　長宜
春ぎらや田をつく頼の日たゝ帰　楢女
春さむし 大を常なる 雪の山　学甫

春雪

雨をかつ 板ちらもありて春の雪　雪骨
仮ねめのくまりと見しを 春の雪　巣欣
降る中に日のゆうり あ里 春の雪　芳渓
けしきより 清き名残や 春の雪　契史
春れにしふ上のゆうりや 春の雪　撰家
春雪ゆく 老ちく こせて 春れ雪　因良
春の雪 清こしこも 清れりけり　菱里

淡雪

淡雪や 雪の 行 江 蓋 蓋 池　漏通
淡雪や 佃 江戸の 木 鳥 鳥 翁　為山

雪解

雪とけや 籬 鉄 斗 てひろき 庭　旭為
極のゝ 漸 にのまる 門の 雪 敷 り 乳　宮舎
簾 遠 に 烟 ふ ゆ ゆ 雪 敷 の 形 し　嶋雪

雪間

葉 灰 の 門 田 赤 の ゆ 雪 敷 ゆ　几薮
門 風 の 夜 れ 明 ち や き 雪 敷 ゆ　童岐
苗 松 の 砂 も の ふ ゆ 雪 間 の 形 し　雲朗
秋 に 網 の 幕 て 岸 行 雪 月 り 乳　桑居
鶴 の の ゝ 鶴 ま ゝ 雪 月 の 形 し　圭如
さ ゝ 行 一 羽 の ゝ 生 や 雪 の 雪 間　風竹

凍解

諸言めたとけて居るなり畑の凍
凍解の草や草履の人たちの里
宮の新のあのるまで日なり氷うく
西ちのまで空とみえたり氷浮
引汐に鉄てあのるまで氷この形し
夕月や田縁りの氷あの形よる
竹あるまでまで海まで氷この形し
俗深ひめの衣洗山日を氷ぬる也
川あの汐にたゝえてぬるゝたり
草の戸杜のをる里とりや氷ぬる也
泡しらやぬるまでをめたる杜の海也

蕉 [illegible]
宮 崔
野 関
柏 聚
士 お
学 甫
芳 艸
碧 氷
朱 麦
涼 蒼
鉄 江

氷浮

氷流

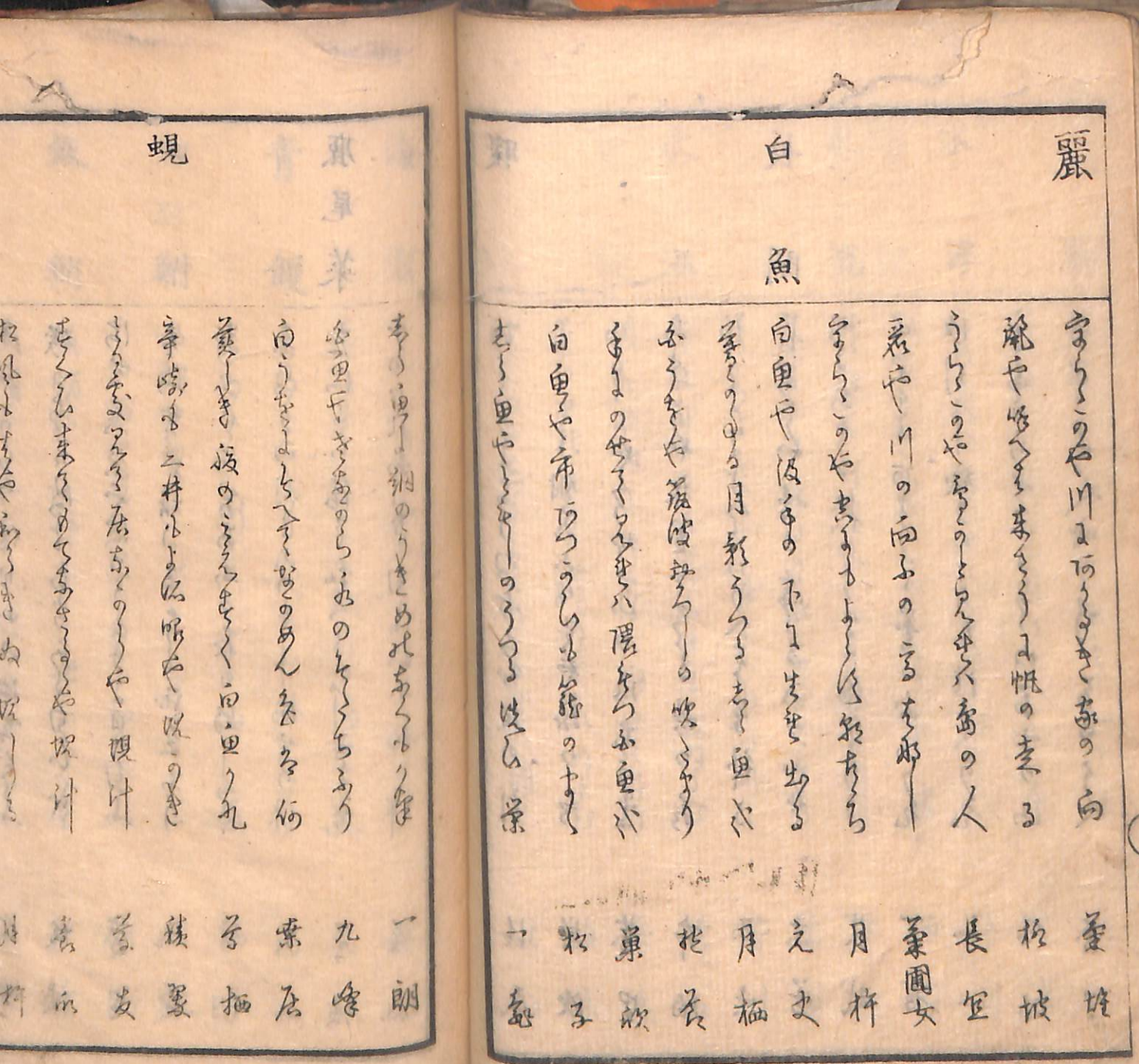
水温

暖

長閑

何ことのまなりぬ折ふ也根の到
あるとのう鉗あおのまや籠の香
何あるこのやくりかう山の底あの雲
あるこのや招笠をくるる谷の氷
何ことうなよくなりへた草部る
長閑さや嶋の深るあの山也
昭まあまる筏のとのまで海也たり
長閑さの何ありて墨るあ山り丸
汐引し後まのこの東洋東の丸
雪あのら長閑まなりぬ富士の山
長閑さや人時り竹 高のうへ

清 氏
巣 欣
菱 里
布 珀
西 店
宗 菅
岩 武
一 有
知 一
清 路
菱 里



淺蜊　かまへ交とりまくし　阿ぎりと呈　巣欲
青おとりとり　海も来き　蜊この意　青定

海苔　海苔の夷や　蜀しとおりふ　俳人　市猿
年刻　こうらの　係日和や　海苔匂ふ　文帯
殘の海苔波も　ひまのある　匂ひ　城埭
海苔　花菜や　波のうゑりに　日の匂ふ　菱里
青海苔や　焙り　夏を　能走ふり　瀬堂
静さや　海苔あふる　夜の　新しつく　李朗
老行まつ　生て　おのをし　海苔の味　左一

鹿尾菜　生深　こうら　俵て　おくるひしき　れ　茅波
戸の口　北　知しき　匂ふや　小雨　陣　茅仙

海雲　さくらを　ゆらく　さまる　海雲　鷹明
おくさまとも　能走の　海雲　れ　更路

青饅　青ぬるや　泊り　袋の　小海　さり　為山
青ぬるや　御立　と　生ハ　佃　鳥　海丁

初鮒　初鮒や　買うて　笠に　出ましし　見る　由縁
たつ鮒や　見ませハ　買うき　出来　人　湧湖

飯鮹　飯鮹や　茅部　足に　逐ひ　おくせ　小巻
飯鮹や　足より　先ハ　揺戸　おさ　巣欲

獺祭魚　魚　祭り　逐して　事を　たすせ　獺　花塘
獺も　貢　古くつ　かつる　魚　鳥岳
魚　かつる　獺の　おつく　茅　おくせ　素山

猫戀

藪しや淋石に猫も志のふ夢　四風
目何とりや意に罹ことぬ猫の影　芳溪
家の幕に帰ことなりや猫の妻　可泉
踏ぬ目を覓の衣や袖の意　宋夢
夢傳うなるに蒙ぬ猫の妻　菅路
下り吹ことの紙も志ろを紙の猫　出阜

佐保姫

さ目姫を意のたしめや旅人　永機
傳おひめの手淺の冬ろひの山　蒙里
さ目姫のひとりをうつを雲も世を　古棠
傳保ひめや汀名松のひとなひ　白鶴
さ目ひめを何らふふりや松の風　掠舟

山笑

柴そやを菜釜のりへや山笑ふ　芝雪
山とらふ雪も果なきゆふへの花　智靜
雉ひの里のしゝ見えて山とらふ　倍雅

野老堀

山笑の猿を委しや雲老同り　逸史
祝たまゝ分の堀より雲老の丸　寂人

松花

御花へ入るを御このし松のむ　鶯成
鶴たしき望のあとなり松の笑　燕宇
のるふ此風にはふるや松の笑　一昌
酒のつとさ伊味あふや松の笑　茶瓶

初緑

岩たれに松のあらたまて初緑　漢舎
旭に池のこのやきゝ見えて初ことり　学友

若緑

春水

一尺の松や二尺の里のこしく里　波国
何出とつさいしき伸て若えとり　瀬若
望よ見えて山に青あり春の水　公成
芝芝や何を鳴てもたるの水　几菱
流るしや修来れも春のさま　牛谷
里の子れ高乗り入つたるの水　鯱三
ふと来の松のくせや春の水　知一
春の春に却るいく蟹や春の水　一朱
枯部と芦の中より春の水　茅屋
日向へと思り出しけりたるの水　巣欣
水ともと鳴ハたしけて春の水　素屋

二月

衣更着

宿れて佐見る浦の二月の丸　風宿
旅ましぬ旅人却る二月の事　煙外
遊びくせ付て寝しきぬ二月の　巣欣
都とかく春以鐘却く二月の丸　白浦
蓬生に夕明りしく二月の形　弟晴
正月のそれ皆に尾の二月の丸　嵐牛
如月や門へ出てゐる家の山　嵐外
おきゝまや目如きく流れし木枝　蓬宮
如月や雨のあしたの外の丈　手品
おきゝまのゆゑ持ちし春の出　古朗
如月や歩行ちに来る里の足　一九

初午

初午や貂笠をかけ出る女中　九起
初午や里は二軒の柱にて　雄風
初午や寺の小藪も伐まゝし　巣欣
初午や窓へ持てしてゝ来る家履　為山
初午や刈明にある畔の笠　岡屋
初午や人の出る葉の小松原　一龍
とる家や家のうち笠二日灸　葱玉
来余せてさしめらせけり二日灸　菱里
突小学日志たしまのしや二日灸　蓉黄
紡子人の出としも始て二日灸　松程
月笠をたのしむてしめや二日灸　岩瓜

一日灸

事納

たゝかせ巨燵蒲とんも事納　巣欣
新しけの葉樓をそゝる事をさめ　茅庸
葉なしやりのことは薪能　真潮
薪能終生を芝の月相の形　ぬか人

涅槃

笠の世よりき寐たるつや涅槃像　為山
今は雨相書寄しく稲たんの日　九嶂
涅槃とや降しもつかぬ新となり　巣欣
作り末の縄もゆるめぬ稲たんの日　旭岡

西行忌

今は其やさの明りや西行忌　昇左
茅屋を呼れしけり西行忌　素山
見るなりの名をしして西行忌　蓬宇

積塔會　　茅甫
よる月のさしく沸しや積塔會　　陳山

治聾酒　　五浚
治聾酒やたらんよきおとゝ鳴　　の候
治聾酒をまゝ交下のゝ咄の丸　　樹石

社日　　巣欣
桂木屋の来るや社日の夏の中　　茅仙
新のさゝ寄めつしき社日の丸

出代　　坐鶴
出代やその言のまゝにけり馬　　見外
これとしぬ出代るの雨夜のれし　　素更
出代に殖ひ出させる帯の事　　完陽
出のまゝりのおれふおりしさゝけふるる

彼岸　　五具
うつめきて庄稼ゆゑおもむ彼岸ぐ　　知風
梨も先出来あるゝひとりかれ　　眉乗
人志しぬ蔬のおさく彼岸の事

朧夜　　帆竜
おほろ夜や笑提灯にたれしつき　　庭の
猶夜や薮根にさけるあれり　　夜以
おほろ夜や船漬させる出来心

朧月　　黄岐
桂木屋の門にたれしや猶月　　月栖
梨さしく家々何屋ゝおほろ月　　李紹
明風も漂ふてあり おほろ月　　禾田
ゆゑしく日暮る山やおほろ月　　涼雲
松の是もその後雑て猶月

春月

小生安や春の月さま鮭四　貴手
拍黄のまゝ出しくれやたまの月　久栄
沙のあしたゝる白ふや春の月　一室
我の我に志ひしき氣や春の月　葵窓
春ゆ終に霜より冴る春の月　朱素
歸しちし我田の雪や春の月　乙點
よし我に氣ハうつゝ祝と春の月　常晴

春宵

却さるゝ覚悟て春の宵寐ゝ　松圃
雨たれや月ゆゑなれと春の宵　二友
寐てゝゐるも惜ひきたるに春の宵　幽止
宵るや春ハ古ひしたゝむ春　鮭二

春夜

春の夜や經くあるもおもしろゝ　蓮宇
春の夜や月ゆゑなりてもこのくれても　葉俊
春の夜や只居なのしも更あき　井井
春の夜や人ゆゑにあるより愛　篤之
たゝるの夜や杖てこのき出ゆ下結の去　野夫
はるの夜やうさゝ小神の仮ゐて　素心
春の夜の冬のつきなり裏富　芳艸
都て居てゆゑさるゝなり春の朝　素心
鞍おけて延出ゆゑ一夕や春の朝　学甫
とちうらも隔ゝ人あり春の夕　芹舎
庭たきの破せられなり春の夕　学友

春朝

春夕

春雨

春雨を志ることなくなりて鶴籠ぶ　蒼山
春雨や油つき足を塔のこゝ　五渡
何もまた前ぬ畑にたるの雨　月栖
なくなるて深き出しけり春の雨　の陽
夜の明て春雨はふる木の乃うれ　耕雨
春雨や深き次第の筏さし　杜堂
こゝら堀に春雨出て夜深りけり　一龍
其に出ては其の氣にありぬ春の雨　瀬光
はふも又よ沼に蓑けり　たるの雨　井雨
御こゝら夜に入るまでや春の雨　素学
猶ひ和て二階志つこゝや春の雨　井東

春風

碁石をつゝ次のゆるゝ春の雨　如石
春雨や雉まつしてなく蒼手お　河嶋
春雨もまして妙きのりや日枝おろし　蟻蛛
春雨や松のり春き鮮の苔　士前
春風に鶯の鋼をまく深きぶ　瓊山
京入の神口常したるの風　布珀
明る雪を照らしたるを春の風　由蓑
春の世を示すのと妙りし法の東　桃谷
春風や洞の香屋に人たのり　菱里
たる風や山へ変きは家しろより　巣吹
あらうまを軒端思りや春の風　貝骨

風光　春日　春空　陽炎

[illegible]

常晴　灣成　漁藻　白羽　桃李　巢吹　炎邦　一景　銀淺　壹岐　一外

[illegible]

糸遊　接木

[illegible]

嵐州　雲外　橋外　長宜　五條　桃五　戸山　米峯　[illegible]　[illegible]　月志

刺木　山焼　焼野

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

畑打　苗代　水口祭

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

種井

住ふる者衆のうしろに種井に
種井ゆへのたく都の国者に
よ石のしも作海佐行種井に

種浸

難魚さへも身みなる時を種ひたし
国へまゝむ水のひさかし種ひたし

種卸

打出たし芸者ゆへて種卸たし
秋さの君をさしめて種卸たし

種俵

菱掛たきかゝまゝや種俵
小さゝし笹打さく種俵

種蒔

種子まきや咲りて海に家りつむる
だれ前や智に出りけるにの手ゆ

生俵
巣頃
月桂
海子
生蒙
汝路
文海
知風
家心
渡野
春来

種芊

種芊やよみ往のしる雨しゆき
種芊やたさしく種もたぬ雨しゆの
種ひもの芽をのく鶴の姫の姫
種芊やうち生なのしも芽の神る

獨活

提ひ居る獨活がいるや他のもれ
だしなり苞にとり出す芽獨活に
居ひたるぬ味のつゝぬく山葵り見
ちさへも過たぬ芽を山葵姫
花のよき前に垂たる持ちさしかれ

山葵

持たぬを手のうにをるや初葵
早蕨や海に入る日をうらつ打る

蕨池
菱里
白実
涯山
黄蝶
尚未女
菱里
朱李
草栖
碧禾
里松

蕨

狗脊

土筆

杉菜

[illegible]

蒲公英

芹花

蘆花

大根花

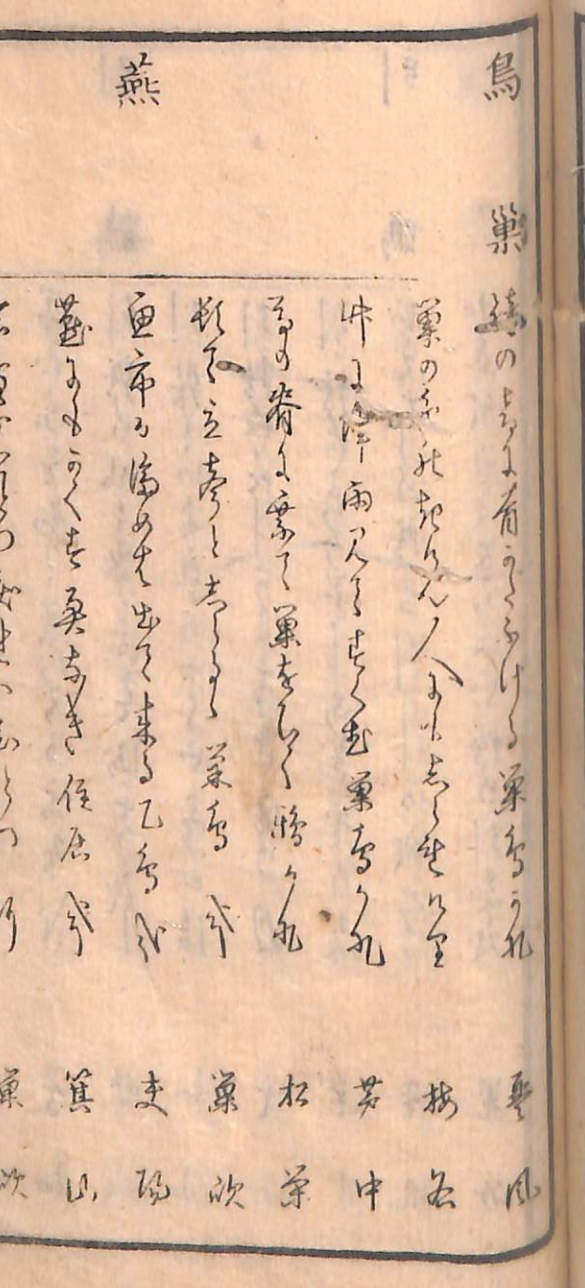
草摘

[illegible]

五形　四も畑もさのこゝぬ花の五形　松蔭
　　打てある畑も見えたのやけん帯艸　葉恒
芽花　笑こけらしきくにたかける芽を代　冰黄
　　ぬきつゝて結ぶぬ帯し芽花の束　巨桂
　　後り帯に束ひてこけしつたあ代　芽甫
虎杖　虎杖の雨にぬるゝや咀傳ひ　豊中
　　いてゝうや山の畑代詩を出愛　蔓足
五加木　ゑ生ゑ花も掃ぬ出加木やあとにあき　相人
　　ぶつ生の裏と物のてや五加朱恒　単歌
狗杷　狗杷の芽やかゝにぬ生て庭出れ　芽友
　　狗杷精てゆくやは寺の恒にまて　単歌

角組芦　五度も日新とゝきて芦の角　二友
　　けれ生ゑし精の毛こゝるや芦の角　己貴
薊　　ゑ生ゑつらしる姿なき薊代　保久賀
　　見おほえの二ゑ代生に居る薊代　双鳥
菊苗　葉苗や家越し車に出とくしを　未足
　　初き葉の扱ひやきし葉の苗　五律
　　新とゑや葉苗植し手をそこく　完絡
菊根分　いとまある分に日無とくや葉根分　不涼
　　新枝に見て居る葉の根分の丸　文帯
春草　笑出ゆる日々宣けれと春の艸　蒼瀬
　　ゑ生くの春とくやたるの艸　道雲

椿



朝雨をふくんで落るつもきかな　江春
夕つくや出のとゆるゆるおち　横　雪菁
風さむし　横出　白きつもきこのち　杜鵑
葉は色やつもきは月にさきあき　寸松
なやさくさ葉にもゆるぬ　横うち　花儀
打開と咲てさ落るつもきうれ　梅泉
落と色は蜂の出てけいたれば　雲禾
葉りゆくりして毎日の横うれし　蒙里
宝つ出きて落るに出るき　横ば　巣欣
葉うくれて一しは高きつもきば　帆風
出ける灯に笑ひこうけし　横うれ　渓川

鳥巣

鶴のよりに有のこうける巣ありれ　聖風
巣のあれ起けん人にはしきれ　拔名
中に降雨ひとさくさ巣ありれ　芳中
その脊に乗て巣をしく鶴かれ　松菓
鶴を立寄と出るに巣ありれ　巣欣
画市の海めを出て来る乙ありれ　吏陽
蕉にもこくさ巣ありき住居ば　箕山
宮ありの出しつ庭出は出しつ灯　巣欣
清さくしや山根の家へ一文字　九峰
蕉や竹をもしめにさきこのしき　蕉玉
現代を後に来れ来し蕉ば　柴居

燕

燕巣　引鶴　引鴨

巣をしり巣もよほしませぬ燕　秀以
人にとしたりこりしませて乙鳥の巣　以松
乙鳥の巣立ひ我くる主こう那　一乗
玉味噌しおしんてあるや燕の巣　徐来
芳玉家を知て巣つくる玄鳥　芳栖
引鶴の風う帯法を御先　鷺城
引鶴といま夜のつくや春の後　知風
引鶴やたしこのよ言ぎ夜の月　雲谷
引鶴やちり雲もあき雲の色　逸史
何せ先しの鶴も引しか残しり　金風
お手形りにあらふや鶴の引あ鼓　巣欣

歸鴈　春鴈　殘鴈　親雀

去鴈のあとのよあらしに御先うれ　承雷
立ちかゝる雲の都はけあり降る鴈　李裳
鴈ゑる雲や上宮の徒たくみ　桐陰
雲遠く雲をとりの雲や浦の鴈　省我
人をこゝ鴈よりこゝ古ふ鴈をこゝ人を鴈　蒲田
鮒ふとりに鴈のこちらし春の鴈　不由
殘るのを減る石地あり春の雁　海子
ゆとなく飛ふ日るあ雲や春の雁　建井
ちゝろ春を春の夜かや殘る鴈　自長
子をつれてこゝりも飛ぶ親せしめ　眉安
葉引てゝ行あり是も親せしめ　巣欣

雀子

[illegible]

蛇出穴

蜂

[illegible]

蛇

初蝶

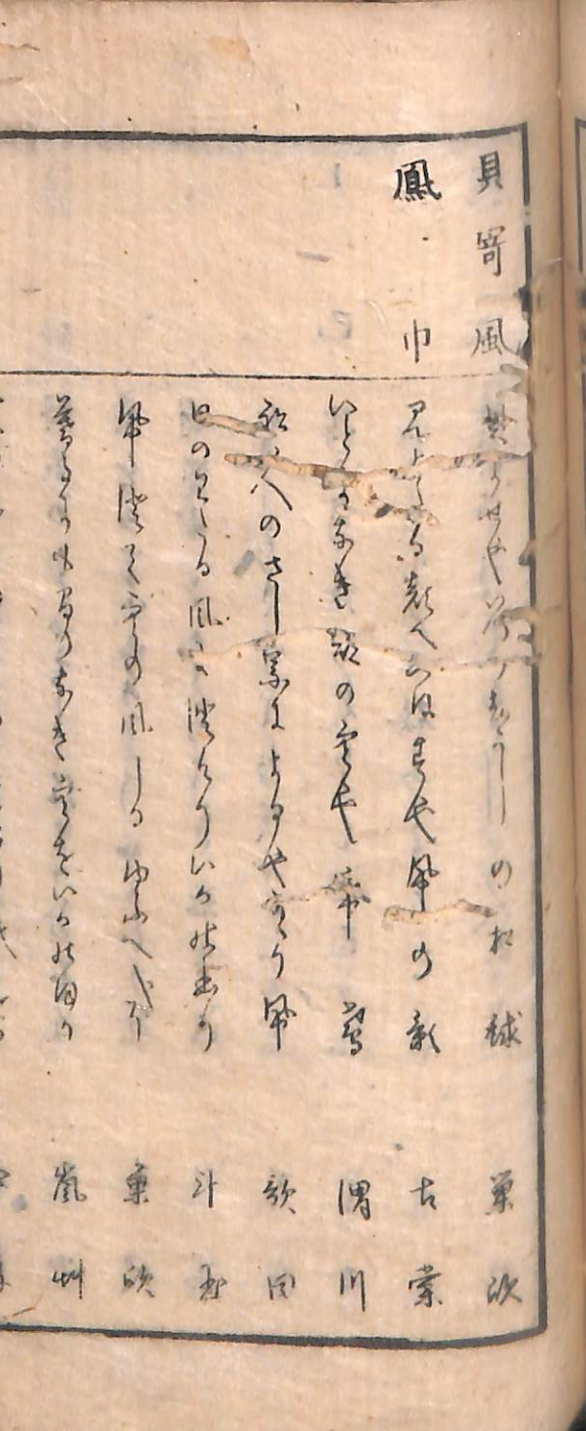
[illegible]

初

蛙

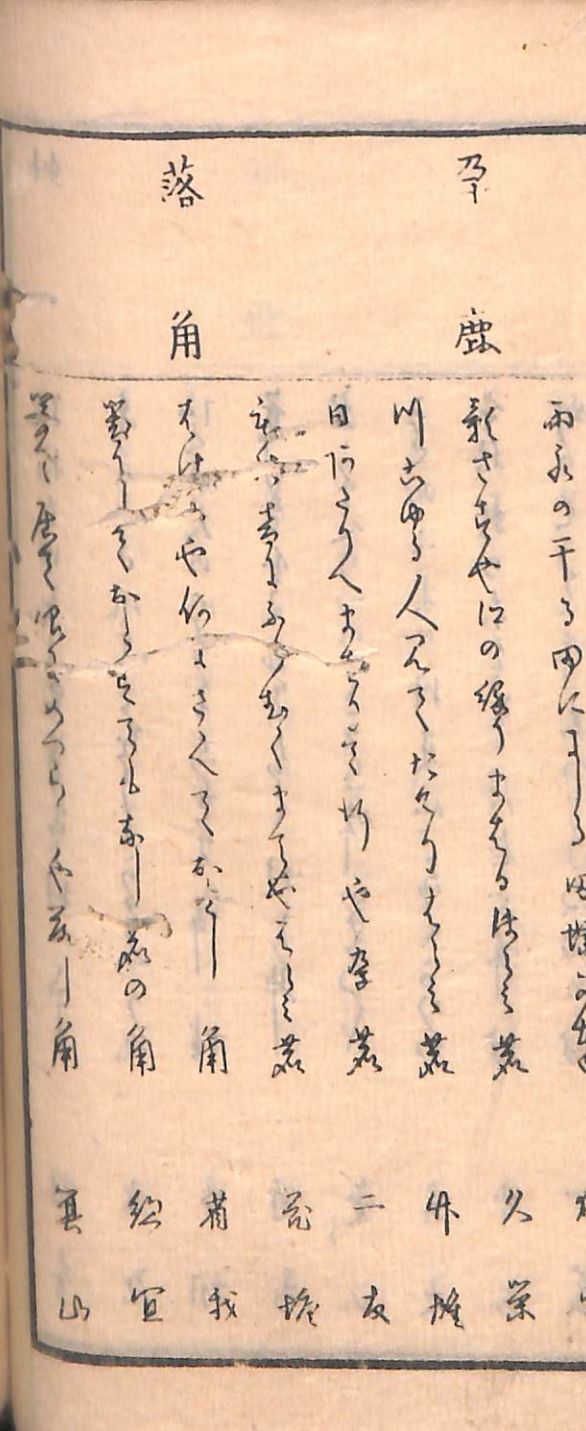
田螺

坂[illegible]風や[illegible]田螺　渭川
代[illegible]のあと[illegible]田[illegible]　南交
山[illegible]や入日の[illegible]田螺　佳山
雨[illegible]の干る田にまし田螺の[illegible]　松[illegible]
[illegible]や口の[illegible]　久栄
川[illegible]人[illegible]　升[illegible]
日[illegible]人[illegible]　二友
[illegible]　[illegible]
[illegible]や[illegible]　角　[illegible]我
[illegible]の角　紹宜
[illegible]角　真山



孕鹿

落角



貝寄風

鳳巾

[illegible]の[illegible]　巣欣
[illegible]　古棠
[illegible]　渭川
[illegible]　欣田
[illegible]　斗[illegible]
[illegible]　巣欣
[illegible]　嵐州
[illegible]　[illegible]

初雷

初雷や[illegible]　[illegible]山
[illegible]雷や長[illegible]　[illegible]風
初雷や[illegible]の[illegible]　巣欣

三月　弥生　上巳　曲水

三月や船まつ人の愛る　思　蕉玉
三月や末のうれ蕨を掃をしむ　学仙
風よ雨の出来し弥生の生山うれ　蓮宇
一泊りに逢をかくるやうしかれし　狀之
隠泉の白い立し弥生の起居り　巣欣
乗合の筆生あめてけやうしかれ　童岐
見舞も笑ちらしよき弥生代　精笑
おれしらき弁にあ笑やうしかれ　芹舎
持ちり稀かれらるく上巳うれ　学庸
莫ことノ下戸の破ふるよ巳代　学栖
是此や競ふあるしノ人ちる　完瑞

雛　菱餅　草餅

笑出せれ雛重這ちむや雛の種　雪蟻
雛ふる手帳とくくや手の切　桑居
雛ふくしあるよ上る花階かれ　巣欣
是よさく世の稱り折ふかり東　移閑
市の雛たちのうち灯のあのり鹿　土羅
掛ものゝ雛やあまたも夜を灯　珠苔
菱あり草の中のり雛の餅　蘿六
きこゝのたゝ上り鹿菱のあち　葉雨
こそうれやきこの種し艸のあち　雪調
艸をちやほんおりてある雛の白い　学友
草餅や却れそ生し徒返し　雪輔

白酒
鶏合
寒食
鞦韆
潮干

田鼠化為鶉

花待

初花

[illegible]

花

[illegible]

花七日

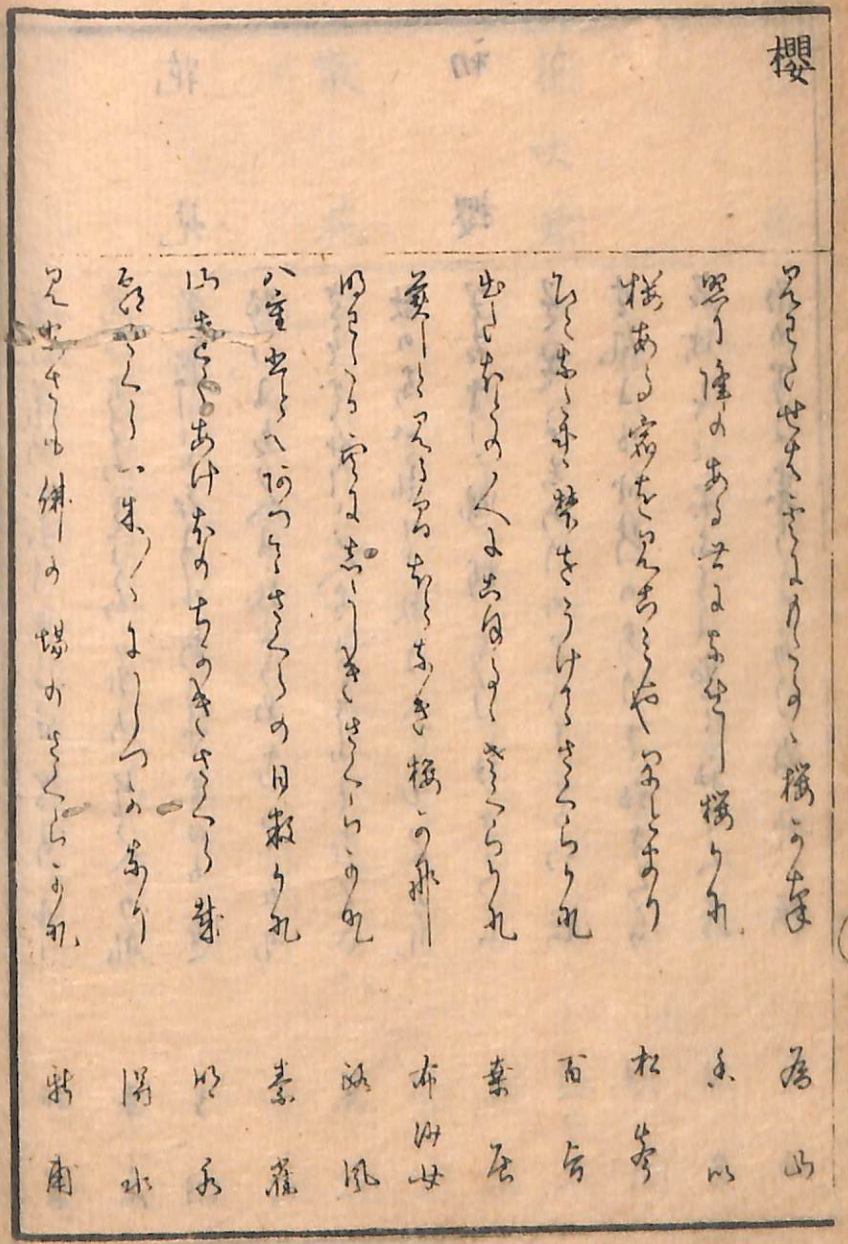
花雨

花吹雪

散花

初櫻

花見



散櫻

[illegible]のふる[illegible]来[illegible]ちる櫻　公成
人の世を[illegible]こせしるさくらかな　五雀
ちる櫻風[illegible]りて[illegible]のりけり　生乗
[illegible]雨を[illegible]こせ[illegible]散るさくら　巣欣
[illegible]うさのかきりある日やちる櫻　[illegible]
[illegible]のあたり[illegible]ふるさまやちる櫻　昭橋
散り出して人[illegible]せるさくら哉　菱里
[illegible]ちる[illegible]ふさくら哉　乙惟
[illegible]櫻木は[illegible]葉の[illegible]や遅櫻　未黄
[illegible]け[illegible]の[illegible]さくらかな　久宗
遅[illegible]覚悟の遅[illegible]け[illegible]　芳艸

遅櫻

櫻鯛

[illegible]風や[illegible]こうけ[illegible]さくら鯛　[illegible]法
[illegible]あふ名の[illegible]やさくら鯛　接永
[illegible]おもうろちや櫻鯛　永年
[illegible]さくら[illegible]おしさくら鯛　等載

櫻魚

[illegible]とる[illegible]ふとりぬさくら魚　九起
[illegible]と[illegible]来[illegible]櫻[illegible]を　巣欣

櫻貝

杯[illegible]ぬ[illegible]やさくら貝　[illegible]
松葉[illegible]ひ[illegible]さくら貝　等甫

若鮎

鮎[illegible]や[illegible]の[illegible]の[illegible]　西翁
[illegible]鮎や[illegible]日の[illegible]の[illegible]　菱里
[illegible]の鮎の日[illegible]ぬ[illegible]　西清

麥鶉

山もあき里の入日や麦ぞうら　為山
明るもんよけあり麦うつら　唯風
思ふ身に志のふ麦あし麦鶉　浪兮女
夏うつらも冬の出と日やむき鶉　昌永

呼子鳥

茶ぞくも清水あふ笠を呼子鳥　椋舟
山の雨空しいつ古に呼子鳥　五風
数帰ぬ春の申るうや呼子鳥　朱泰

雲入鳥

春入て雲なりもるたらつ礼　月杵
春雲に入るやつまるこ船の子　由儀
田や畑を志らを春によき小面　柏泉
接桜も去月と二階や春とき　乙點

桃

燒とせして実よりもこせる春ぞ　花塘
夕日かりこうやふりしの春の家　智野
見まかふや桃を布しとおもふより　宗善
里蔵て打人もこえを桃の笠　楽屋
笠間へ通る子のあり桃のむ　壹岐
落つきて居る人もあしもの笠　林舟
生垣に捕あらへてをこの笠　蓬東
隣子まて砂ふきつけて桃日和　西翁

海棠

海棠や枝さとに笠咲こうさし　孫市
海棠を降しつめたり庭の面　松朗
海棠や春雪をけてむ重し　為山

梨子花

浴とまゐハ隣なたひぬなしのむ　荳子
理を著てゝ花に訪りなし梨のむ　洗耳
おもはふ舟の法来やなしの花　久栄

連翹

連翹や紫そのやりる袖をふく　唯風
連翹や雨にぬれてもむこうしし　朱素
連翹やみえてけり春にうるの春　菱里
連翹の咲にひくし垣のむ　雅村
連翹や枯しとおもふたしり枝　寄山

辛夷

裏こせる家のこ多き志ふしが　童岐
みるこそ此にせもや義木のむ志ふし　朱素
高山木とのこ人れしる辛夷が　花分

木瓜花

人のせてゆくのぬ事や木瓜の花　完祐
木瓜のむ芳外見にをくてゝ見る　巣頭
結合を追かゝるや木瓜の花　虫地
学てまし一里に俳や木瓜のむ　苣麿

木蓮花

木蓮や晴にせりに花の蓋る　芳栖
木蓮のちる踵つくやゝ夕清とめ　芳友

長春

長春や高をとをしし咲　愛樹石
也春の根にも鶯きぬのしきれ　苣麿

躑躅

織のつくなとに甘いか赤清にし　尋丞
春のしてなのこゝ花や山清にし　トサ　桃園
岩を形やゝ日をうけて咲躑躅　童岐

藤

来る見れば越せぬ川なり夜のむ　重殊
夜さりなり日のいつともふしの色　古友
池にふる雨に青なし夜のむ　兼也
日を裏にしてくまりなり夜のむ　几夜
今はせし雨のしつくやふしの花　壮山
沈沼も咲く味をつやふしのむ　雪朱

沉丁花

庭口のそこけ沈丁むし　巣欲
夏にさめる机の夏や沈丁花　唯風

糒花

萩生ハ和にさのりを見せて小米むし　卜早
豆米生ハ以つも咲まん小米　斗外
庭へ日のあたりをめけて小米花　月茶

棗花

萩ゑのち棗りちにさまむなつめ　巣欲
拾のへさ赤ゑ山やいをなつめ　芽芽

林檎花

深泉はかりに刻でむ咲林檎かれ　唯風
終のへく樋にむちる林檎の草　芽樋

山吹

山吹や屋をしてへる身ゑくし　蕉玉
山吹や不動名まとも雑りなる　不退
山ふきや枝にさきつゝ出とこのまへ　徐井
山吹の雨に乱のさむ申へのかく　陵城
さつくりと棣棠ちりぬ岩の上　蕉石

櫻草

菜を人にとたまくさしし櫻草　来芝
日のむしをあきりをぬさくる草　晴甫

菫

引きてし車の下やむさしきて　[illegible]
[illegible]風のまきにさはらぬ[illegible]　源義
雉[illegible]の[illegible]　[illegible]
一[illegible]　菅雨
鼻[illegible]菫[illegible]　一[illegible]
菫[illegible]　[illegible]
[illegible]余の[illegible]　松[illegible]

菜花

菜の[illegible]　五[illegible]
菜の[illegible]　久[illegible]
きの[illegible]　[illegible]
菜の[illegible]　松[illegible]

草麥

[illegible]麥は一[illegible]　[illegible]
[illegible]麥の[illegible]　[illegible]
[illegible]　五[illegible]
[illegible]　花[illegible]

蘘荷竹

[illegible]　[illegible]
[illegible]　月[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

茶摘

[illegible]　一朗

爐塞

初虹

初虹や麦の間のたまり水　接水
ちつ虹やさきしさうなる漁場村　九峰

八十八夜

ちり雲もなくさむ八十八夜うれし　蒲田
何出そつせぬは八十八夜うれし　巣欣

忘霜

紫垣の白ひもぬけて忘れ霜　庭の
日は向てゆるせ八蓑はゆるせ霜　杜蓑
独月やあるのなきの忘れ霜　半夢

別霜

仲買は来ておとろくやゆるせ霜　梅程
そのまゝゆるせさらめ其外のしも　永乗

名残霜

笹芝や霜の名残の一志先り　淡苔
葉の芽は隠りし霜も名残かれ　乙點

永日

頃よりは日永や浅も来ぬ　塚兄
時をけり屋のもゆる日永かれ　宗美
書生はなるや日永の獄つのひ　雪輔
蔭簀のちさく日も永き出茶屋ゝ　素心
永き日や愛笑をなく不二風　五具
夜の寝は楊はたちく日永かれ　絶来

遅日

蓑逢し一舟たまる報謝越し　居由
何事なのをゆるを寝て起て蓑逢き　の山
鶏も謝は上りて入れ抄そし　来賢

竹秋

月をまつたちもなくて仲の秋　四風
たまてゝ気うつ仏をゆるせ仲の秋　蓑波

弥生山　春山　春野　春川

春鐘

春のこゝろ夜のつゝみるとも学さらし　尾村
けしき見て居住ハ撞なり春の鐘　嵐生
寝ましたる鶏の宮や春のこゝろ　学友
春のこゝろ長き流生ましたり　白起

暮春

暮の時未を見あくるや春の暮　由儀
枝をおしなるに春を暮にけり　秋甫

夏近

夏鉢のこゝろ気さしき夜近き　巣欣
旅人の雨こさして夜ちかし　彭渕
夜近ちかぬ日の影鳥の春　五松
夜ちかし船点弾る湯を作し　乙野
立山や夜ちかしなる宮の色　菱里

夏隣

白壁を掛るにこゝろ生て夜隣　笑文
若くさき笑の手や春の隣　梅雅
るしみ志ちらく笑て夜隣　完路

行春

行春の行き生や雨の酒なる　九峰
行春や日本を昔の矢走船　莫子
行春や手打て見る歯楽の丈　李朗
昔よ見て春を行ありよの川　菱里
行春や火の消や生き昔　葉宝
行春の木にこゝろ生ひり悟の家相　波路
ちらなき常の船寝や保生寝　巣欣
峰の紫は落る春を落てゆかひ寝　学友

三月盡

春惜

夷をしむ後に日のさす蟬屋ぬ　喧風

ぬれて夷の何かに浮うて夷惜む　為我

夷をしむ人者ものを人のうへ　学甫

夷をしむさまを浴先の夕、鶴　芳艸

春之部終

6089
3.14

